

〔3〕 実践事例 〔イ 『考え・まとめる』 過程における学習問題の設定〕**・実践事例3 第1学年 「武家政権の成長と東アジア」 -武士の世の始まり-（全6時間）****単元について**

本単元は、平安時代から鎌倉時代にかけて武士が台頭し、武家政権が成立していく過程を取り扱う。「武家政権がどのようにして誕生したか」をテーマに、古代の天皇や貴族の政治と武家政権との違いに着目させながら追究させることで、武士が「主従の結びつきや武力を背景にして」勢力を伸ばし、御家人制度を基盤とする武家政権を東国に成立させ、その勢力を西国にも伸ばしていくことに気付かせる。そして、古代から中世への転換の様子や武家政権の成立について、自分の言葉で表現できるようにさせる。そのために、学習問題について個人の考えを基に討論型の学習を展開し、社会的な見方・考え方を養うことをねらう。

指導に当たって

本単元の学習過程を「つかむ」「調べる」「考え・まとめる」とし、「つかむ」過程では、鎌倉時代が江戸時代の終わりまでの約700年間にわたる武家政権の始まりとなることから、武士の登場から武士が台頭していく過程を追究させ、鎌倉幕府が成立していくことを理解させるために学習問題Ⅰ「武家政権はどのようにして誕生したか」を設定する。「調べる」過程では、教科書や資料集、NHK for Schoolの映像などを通して、学習問題Ⅰを解決するための知識、概念を習得させる。ここでは、主に平清盛の政治、源平の争乱、源頼朝による守護・地頭の設置、承久の乱などを通して、武士の力が朝廷や貴族の力を徐々に上回っていき、武家政権が成立していったことに気付かせる。その上で、学習問題Ⅱ「武家政権の成立はいつか」を設定し、1185年、1192年、1221年の説を比較させて意思決定を迫り、調べて分かったことを根拠に理由を付けて自分の考えをまとめさせる。「考え・まとめる」過程では、学習問題Ⅱについてグループ内で討論を行わせて、全体で発表させる。最終的には、個人の意見として意思決定を迫りまとめさせることで、生徒の思考を深めさせる。

単元の目標

- (1) 武士が台頭し武家政権が成立したことや、武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことについて関心を高め、意欲的に追究させる。
- (2) 武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まったことについて、多面的・多角的に考察させ、考えを表現させる。
- (3) 武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まったことについて、様々な資料を適切に選択させ、活用させる。
- (4) 武士が台頭して武家政権が成立し、武士の支配が全国に広まったことを理解させ、その知識を身に付けさせる。

単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度【関】	社会的な 思考・判断・表現【思】	資料活用の 技能【技】	社会的事象についての 知識・理解【知】
○武士が台頭し武家政権が成立したことや、鎌倉時代の武士や民	○武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配が次第に全国に	○武士が台頭し武家政権が成立したことと、鎌倉時代の武士や民	○武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配が次第に全国に

衆の成長を背景として社会や文化など中世の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追究し、武家政権の特色を捉えようとする。	広まり、武家政権が発展していったという時代の流れを、幕府と朝廷の関係、主従関係の成り立ちなどから多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	衆の動きに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめている。	広まり、武家政権が発展していったことを理解し、その知識を身に付けている。
---	--	--	--------------------------------------

単元の指導計画（全6時間）

過程	主な学習活動	教師の指導・支援	時配
つかむ	○教科書に記載されている人物名を確認させる。 ○武士の登場から鎌倉幕府の成立までの約250年間、武士は何をしていたのか予想したことを基に、学習問題Ⅰを設定する。	○平将門、平清盛、源義経、源頼朝の共通点は何かを考えさせる。 ○最初の武家政権である鎌倉幕府が成立する前、武士はどのような立場で、どのような役割だったのか予想させる。 ○戦う武士の様子を読み取らせ、気付きや疑問を基に、学習問題Ⅰを設定する。 【改善のポイント1】	1
	【学習問題Ⅰ】 武家政権はどのようにして誕生したか ○関東で平将門が、瀬戸内で藤原純友が起こした乱について調べ、武士が生まれた背景について理解する。	○土地をめぐる争いが起こり、戦いを職業とする武士が生まれたことに気付かせる。 ○武士が登場する背景について、土地の権利や境界をめぐる争い、武士団のしくみなどから考察させ、キーワードを使ってまとめさせる。 【改善のポイント2】	

調べる	○保元・平治の乱について調べ、院政が始まる中、武士の役割が大きくなったことを理解する。 ○平清盛の政治について調べ、平氏はどのようにして政治の実権をにぎったのか理解する。 ○源平の争乱について調べ、鎌倉幕府が成立する過程について理解する。	○保元・平治の乱の様子を読み取らせ、武士が地方から中央に進出してきたことに気付かせる。 ○平清盛は、藤原氏と同じように、朝廷との関係を深めて政治の実権を握ったことに気付かせる。 ○源平の争乱に関する資料を読み取らせ、源頼朝は義経との対立に乗じて勢力を伸ばしていくことに気付かせる。 ○武士が台頭する様子について、政権をめぐる争いや有力武士の対立などに関連させ、キーワードを使ってまとめさせる。 【改善のポイント2】	1
	○幕府の仕組みや将軍と御家人の主従関係について調べ、源頼朝が目指した政治について理解する。 ○承久の乱について調べ、勝利した幕府の支配が西国にも及んだことを理解する。	○平清盛の政治と比較させることで、源頼朝が目指した政治について理解させる。 ○承久の乱前後の幕府の勢力を資料から読み取らせ、幕府の勢力が西国に拡大したことに気付かせる。 ○武士の勢力が拡大していく過程について、幕府の仕組みや朝廷との関係に着目させて、キーワードを使ってまとめさせる。 【改善のポイント2】	1
調べる	○鎌倉時代の建築物、彫刻、文学作品などについて調べ、鎌倉文化の特色を理解する。 ○鎌倉仏教の特色を理解し、民衆に広まった理由について考える。	○鎌倉時代の文化が、力強さや写実的であることから、武士の台頭の影響を受けていることに気付かせる。 ○鎌倉仏教が現在も広く信仰されている理由を理解させ、民衆に広まった理由について考えさせる。 ○鎌倉時代の文化について、貴族や武士、庶民の係わりに注目させて、キーワードを使ってまとめさせる。 【改善のポイント2】	1

	○武士が台頭し武家政権が誕生した過程についてまとめる。 ○武家政権の成立を 1185 年、1192 年、1221 年とする諸説があることを確認し、資料を読み取りながら学習問題Ⅱを設定し意思決定 1 を行う。	○武士の登場から鎌倉幕府の成立、勢力の拡大について、学習した内容を振り返らせ、武家政治の特色を理解させる。 ○守護・地頭についての資料（1185 年説）、征夷大將軍についての資料（1192 年説）、承久の乱についての資料（1221 年説）からそれぞれの主張の違いを読み取らせ、学習問題Ⅱへと導き、意思決定を迫る。 ○学習問題Ⅱについて、調べて分かったことを根拠に理由を付けて、自分の考えを記述させる。 【改善のポイント 3】	1
考え・まとめる	○学習問題Ⅱについて、自分の考えを基にグループ内で討論し、グループの意見をまとめ発表する。 ○各グループの意見を参考に、学習問題Ⅱに対して意思決定 2 を行う。	○意思決定 1 を基に、グループの話し合いで積極的に自分の意見を伝え合うように促す。 ○グループの意見に対して、「どう思う？」と他の生徒につなげ、教師と生徒、生徒と生徒の対話を促し、お互いの考えを共有させる。 ○グループ内討論と全体発表を参考に、自分の考えを振り返らせ、最終的な意思決定を迫る。 ○学習問題Ⅱについて、調べて分かったことや考えたことを根拠と理由に付けて、自分の意見を記述させる。 【改善のポイント 3】	1

改善のポイント

- 1 社会的事象に対する生徒の気付きや疑問を基に、単元を貫く学習問題を設定すること
- 2 社会的事象について調べたことや考えたことについて、簡潔な文章にまとめさせたり、キーワードを使って整理させたりすること
- 3 社会的事象について説明したり自分の考えを論述したりする際に、根拠と理由を述べさせること

第1学年 「武家政権の成長と東アジア」 -武士の世の始まり-（1/6）

本時の目標

「武家政権はどのようにして誕生したのか」について学習問題を設定し、武士の登場から武家政権の成立までの時代の流れについて予想を立てることができる。

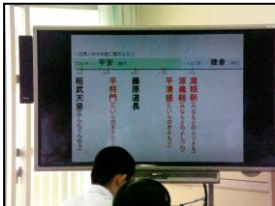
学習問題の設定

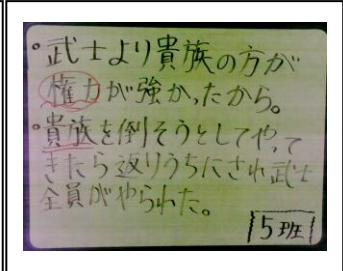
C トンネル型（時間経過に着目させる）

本単元の学習問題Ⅰ「武家政権はどのようにして誕生したか」では、源頼朝や鎌倉幕府に生徒の意識が向かうと予想され、武士の時代が鎌倉時代から突然始まったかのように感じてしまう可能性がある。そこで、平将門や藤原純友が活躍する頃と源頼朝や源義経が活躍する頃との時間経過に着目させ、武力に秀でた武士が、250年間もかかって武家政権を誕生させたことに疑問をもたせ、学習への関心を高めさせた。この250年間、武士は何をしていたのか予想を立てさせ、気付きや疑問を基に、調べる視点を整理しながら単元の見通しをもたせた。

武士の登場から武家政権の誕生までを年表で確認し、長い時間が掛かっていることに着目させ、武士はその期間に何をしていたのかを予想させた。予想を基に気付きや疑問を整理しながら、「武家政権はどのようにして誕生したか」という学習問題を設定し、確かめたいことや疑問に思ったことを書かせた。

本時の様子

学習活動	教師の指導・支援
○『平治物語絵巻』の資料を読み取り、武士の時代について学習することを確かめる。 ※資料を読み取らせるための質問 ・何が起きていますか？ ・どんな人が活躍している？ ※考えさせるための発問 ・何時代の様子でしょう？ ・平安時代の主役は？ ・武士は、何をする人？ ○本時のめあてをつくる。	○電子黒板に資料を提示し、発問と組み合わせて読み取りを助け、武士が活躍する時代の様子について生徒が関心をもつようにした。  ○武士が政治をするようになった世の中について学習していくことを確認した。
めあて これから学習する単元の学習問題をつくろう。	
○教科書から読み取った人物を年表にまとめ、気付きを発表する。 	○桓武天皇から源頼朝まで、この時代に活躍した人物を電子黒板の年表に提示し、それぞれの人物が活躍した時期について確認した。 ○平将門は藤原道長よりも前に活躍していることに気付かせ、武士は平安時代に登場し、武士の登場後も貴族が政治の中心であったことを理解させた。

○武士の登場から鎌倉幕府の成立までの約250年間、武士は何をしていたのか話し合い、グループの予想を発表する。 【生徒の反応】 ・武士は貴族の家来だった。 ・貴族が力をもっていた。 ・朝廷側に強い兵がいた。 ・武士にはお金がなかった。 ・武士は不満がなかった。 ○武家政権の誕生までに、どのような出来事があったのかを考え、学習問題Ⅰをつくる。	○武士の立場や役割について、貴族との違いに注目させながら、生徒の自由な予想を促した。 ○グループによる話し合いを通して、積極的に自分の考えたことを伝え合うように促した。   ○各グループの発表に対して、「どこから？」と問い返し根拠を説明させたり、「どうして？」と問い返し理由について述べさせたりした。また、「どう思う？」と他の生徒につなげ対話を促し、お互いの考えを共有させた。 [社会的事象に対する生徒の気付きや疑問を基に、単元を貫く学習問題を設定すること] 【改善のポイント1】 ※各グループの予想を基に、学習問題Ⅰへと導き、確かめたいことや調べてみたいことをまとめさせた。その際、生徒の予想を生かして、これからの学習で確かめたいことをカテゴリー分けし、追究する視点（武士の登場、武士の台頭、鎌倉幕府の成立、幕府勢力の広まり）を立てさせた。また、生徒が学習の見通しをもつように、気付きや疑問を基に、調べる内容を整理した。
【学習問題Ⅰ】 武家政権はどのようにして誕生したか。	
○教科書や資料集などを使って、平安期の武士の役割について調べる。 ○平将門の乱、藤原純友の乱がともに失敗したことから、武家政権はどのようにして誕生したのかを考える。 ○次時の学習について確認をする。	○土地をめぐる争いが起こり、戦いを職業とする武士が登場したことに気付かせた。 [社会的事象について調べたことや考えたことについて、簡潔な文章にまとめさせたり、キーワードを使って整理させたりすること] 【改善のポイント2】 ※武士が登場した背景について、キーワード（武士団、平将門の乱、藤原純友の乱、朝廷と武士の関係など）を使って学習計画表に整理する時間を設定した。 ○次時は、武士の台頭について学習することを確認した。

第1学年 「武家政権の成長と東アジア」 -武士の世の始まり-（2／6）

本時の目標

平氏政権の興亡に関する資料から武士が台頭する過程を読み取り、平氏は、どのように実権をにぎり、どのような政治を行ったか理解することができる。

本時の様子

学習活動	教師の指導・支援
○前時までの内容を振り返り、本時のめあてをつくる。	○学習問題Ⅰについて振り返らせ、平氏の政治について学習することを確認させた。
めあて 平清盛はどのようにして実権をにぎったか。	
○院政の始まりとそのしくみについて、調べたことをワークシートにまとめる。	○摂関家との関係に着目させながら、上皇を中心とした院政の始まりとそのしくみについて理解させた。
○平氏政権の特徴について、調べたことをワークシートにまとめる。	○朝廷の権力争いに関わる中、保元の乱や平治の乱により、武士の役割が大きくなったことに気付かせた。
○源平の争乱について、調べたことをワークシートにまとめる。	○平清盛はどのようにして政治の実権をにぎったのか、摂関政治と比較しながら、調べたことをワークシートにまとめさせた。
○学習した内容を振り返り、武士が台頭する過程から学習問題について考えたことを記述する。	○平清盛は、日宋貿易に力を入れ瀬戸内に勢力を広げたことに気付かせた。
生徒が記述したキーワード 天皇家 つながり 朝廷との関係 一族 高い位 広い支配地 日宋貿易 経済 藤原氏に似た政治 日宋貿易	○平氏政権への不満から平氏打倒の機運が高まり、源氏の軍勢に滅ぼされたことをまとめさせた。
	○源頼朝と源義経の動きを中心に調べさせ、関東武士団と朝廷との関係について理解させた。
○次時の学習について確認をする。	○本時の学習を振り返り、調べて分かったことや考えたことをまとめさせ、簡潔な文章でワークシートに記述させた。 [社会的事象について調べたことや考えたことについて、簡潔な文章にまとめさせたり、キーワードを使って整理させたりすること] 【改善のポイント2】 ※キーワードを考えさせる前に、学習問題の内容を確認させ、本時の学習内容と学習問題とのつながりを意識させた。 ※学習問題の解決に向けて習得した学習内容を、キーワードを使って学習計画表に整理させた。
	○次時は、鎌倉幕府のしくみについて学習することを確認した。

第1学年 「武家政権の成長と東アジア」 -武士の世の始まり-（3/6）

本時の目標

幕府のしくみや承久の乱に関する資料から将軍と御家人の主従関係について読み取り、鎌倉を中心とした武家政権が目指した政治の特徴について考え、自分の考えを適切に表現することができる。

本時の様子

学習活動	教師の指導・支援
○前時までの内容を振り返り、本時のめあてをつくる。	○学習問題Ⅰについて振り返らせ、鎌倉幕府のしくみについて学習することを確認した。
めあて 源頼朝はどのような政治を行ったか。	
○鎌倉幕府のしくみについて、調べたことをワークシートにまとめる。	○鎌倉幕府のしくみについて、朝廷との違いに着目させながら、調べたことをワークシートにまとめさせた。
○御恩と奉公の関係について、調べたことをワークシートにまとめる。	○将軍と御家人の主従関係について調べさせ、源頼朝が目指した政治について理解させた。
○執権政治と承久の乱について、調べたことをワークシートにまとめる。	○北条氏の執権政治について調べさせることを通して、幕府と朝廷の関係に着目させながら、武家政権が確立していくことに気付かせるようにした。
○学習した内容を振り返り、鎌倉幕府が目指した政治の特徴から学習問題について考えたことを記述する。	○承久の乱に勝利した幕府の支配が、西国にも及んだことに気付かせるようにした。
生徒が記述したキーワード 主従関係 御家人 御恩 奉公 守護 地頭 鎌倉幕府 将軍 執権 承久の乱 恩賞 年貢 六波羅探題 御成敗式目	○本時の学習を振り返り、調べて分かったことや考えたことをまとめさせ、簡潔な文章でワークシートに記述させた。
	[社会的事象について調べたことや考えたことについて、簡潔な文章にまとめさせたり、キーワードを使って整理させること] 【改善のポイント2】 ※キーワードを考えさせる前に、学習問題の内容を確認させ、本時の学習内容と学習問題とのつながりを意識させた。 ※学習問題の解決に向けて習得した学習内容を、キーワードを使って学習計画表に整理させた。
○次時の学習について確認をする。	○次時は、鎌倉文化について学習することを確認した。

第1学年 「武家政権の成長と東アジア」 -武士の世の始まり-（4/6）

本時の目標

鎌倉文化の特色について、武士や民衆に影響された時代背景と結び付けて考え、自分の考えを適切に表現することができる。

本時の様子

学習活動	教師の指導・支援
○前時までの内容を振り返り、本時のめあてをつくる。	○学習問題Ⅰについて振り返らせ、鎌倉文化について学習することを確認させた。
めあて 鎌倉時代にはどのような特色をもった文化が展開したか。	
○鎌倉時代の文化について、調べたことをワークシートにまとめる。	○鎌倉時代の建築物、彫刻、文学作品などについて調べさせ、武士の気風にあった文化の特色について気付くようにした。
○鎌倉時代の仏教について、調べたことをワークシートにまとめる。	○鎌倉仏教の各宗派の特色や開祖について調べさせ、分かりやすく信仰しやすい教えが生み出され、武士や庶民に広まったことに気付かせるようにした。
○学習した内容を振り返り、鎌倉幕府が目指した政治の特徴から学習問題について考えたことを記述する。	○本時の学習を振り返り、調べて分かったことや考えたことをまとめさせ、簡潔な文章でワークシートに記述させた。 [社会的事象について調べたことや考えたことについて、簡潔な文章にまとめさせたり、キーワードを使って整理させたりすること] 【改善のポイント2】 ※キーワードを考えさせる前に、学習問題の内容を確認させ、本時の学習内容と学習問題とのつながりを意識させた。 ※学習問題の解決に向けて習得した学習内容を、キーワードを使って学習計画表に整理させた。
○次時の学習について確認をする。	○次時は、学習問題Ⅰについてまとめることを確認した。

生徒が記述したキーワード

力強い わかりやすい 軍記物 戦乱
ききん 災害 念仏 題目 布教 巡礼
座禅 さとり

第1学年 「武家政権の成長と東アジア」 - 武士の世の始まり - (5/6)

本時の目標

武家政権の成立に関する諸説を基に、「武家政権の成立はいつか」という学習問題Ⅱを設定し、自分の意見を適切に表現することができる。

本時の様子

学習活動	教師の指導・支援
○前時までの内容を振り返り、本時のめあてをつくる。	○これまでの学習を振り返らせ、学習問題Ⅰについてまとめることを確認した。
めあて 「武家政権はどのようにして誕生したか」について、考えを深めよう。	
○これまでの学習を振り返りながら、学習問題Ⅰについて分かったことや考えたことを記述する。	○武士が登場し力を付けていく様子をまとめさせた。 ○貴族の政治と比較しながら、武家政権の特徴をつかませた。 ○学習問題について、様々な視点から調べて分かったことや考えたことをワークシートに整理させた。
○武家政権の成立に関する諸説についてグループで話し合い、最も有力な説を選択する。	○武家政権の成立を1185年、1192年、1221年と諸説あることを確認させ、グループで話し合い選択するように伝えた。
○グループの意見を発表し、学習問題Ⅱを設定する。	○それぞれの説の根拠や理由を比較させ、気付きや疑問を基に学習問題Ⅱを設定するようにした。 ○グループの意見に対して、「どう思う？」と他の生徒の意見につなげながら、生徒の気付きや疑問を引き出し、それを整理しながら諸説のポイントを確認させ、武家政権が成立したと判断する条件について考えさせることで、学習問題Ⅱに導いた。
【学習問題Ⅱ】武家政権の成立はいつか。	
○学習問題Ⅱについて、意思決定を行う。	〔根拠と理由を区別して、自分の考えをもたせるための手立て〕【改善のポイント3】 ※単元を通して学習した内容を振り返り、資料から読み取った事実と関連させて自分の考えをまとめ、ワークシートに記述させた。 ※選択した資料から読み取った情報を、意思決定の根拠や理由として示すように促した。
源頼朝は、朝廷とは別に武士による新しい政治を作り、やがて頼朝が征夷大将軍となり鎌倉幕府を開いたため、政治や征夷大将軍が新しくなったため、1192年から成立したと思われる。 征夷大将軍になったのは1192年だがまだ幕府はまだと成立していないと思います。1221年にいたるまでに平氏を破ったり、荘園領主と地頭の決り事を決めたりして鎌倉幕府が成立するための準備をして、やがて1221年に今までのことが報われて、幕府が成立したと考える。	○次時は、学習問題Ⅱについて討論を行うことを確認した。
○次時の学習について確認する。	

第1学年 「武家政権の成長と東アジア」 - 武士の世の始まり - (6/6)

本時の目標

「武家政権の成立はいつか」について、意欲的に討論に参加し、討論の内容を踏まえながら自分の考えを再構築し、適切に表現することができる。

本時の様子

学習活動	教師の指導・支援
○前時までの内容を振り返り、本時のめあてをつくる。	○学習問題Ⅱについて振り返らせ、本時のめあてを確認させた。
めあて 学習問題Ⅱ「武家政権の成立はいつか」について討論をしよう。	
○学習問題Ⅱについて、グループで討論を行う。	○単元を通して学習した内容や資料から読み取った情報を根拠に、理由を付けて自分の考えを説明させるようにした。
○グループでまとめた主張を発表する。	○前時の意思決定を基に討論させ、グループとしての主張をまとめさせた。
○学習問題Ⅱについて、意思決定を行う。	○グループでまとめた主張を発表させ、その主張に対して、「どの部分からそう考えたの？」と生徒の判断の根拠を問い直したり、「どう思う？」と他の生徒の意見につなげて対話を促したりした。
私は、鎌倉幕府の成立は、(1185年 / 1192年 / <u>1221年</u>)と考えます。 理由 最初は1192年だと思っていました。でも「成立したのは1221年だと思いました。色んな人の意見を聞いて、幕府が開かれたのは1192年だけど、その後承久の乱で勝利したり、全国を支配していたというところや、幕府が朝廷に勝ったことなどを見ると、きちんと鎌倉幕府が成立したのは1221年だと思います。	[社会的事象について説明したり自分の考えを論述したりする際に、根拠と理由を述べさせること] 【改善のポイント3】 ※単元を通して学習した内容や資料を根拠にして、最終的な自分の考えに対して理由を示すように促した。 ※各グループの主張や他の生徒の意見を参考にしながら、根拠と理由を付けて、最終的な自分の考えをワークシートに記述させた。
○次時の学習について確認する。	○次時は、東アジアの国際関係について学習することを確認した。